

令和4年度 東京都立藏前工業高等学校全日制 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立藏前工業高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 総務主任＝事務局長、総務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成
　　校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務部担当）、主幹教諭（生活指導部担当）、
　　主幹教諭（進路指導担当）、計6名
- (4) 協議委員の構成
　　大学関係者1名、中学校長1名、警察関係者1名、地域住民代表1名、同窓会代表1名、
　　PTA関係2名の計7名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
　　第1回 令和4年6月24日（金）内部委員6名、協議委員6名
　　協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
　　令和4年度学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
　　本校の現状と課題等、書面で意見交換
　　第2回 令和4年11月29日（火）内部委員6名、協議委員6名
　　協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
　　第3回 令和5年月日（）内部委員6名、協議委員〇名
　　年間の教育活動に関する報告
　　協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議、報告
　　次年度の協議会の日程（概要）確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
　　第1回 令和4年11月29日（火）内部委員3名、協議委員2名
　　学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
　　今年度の学校評価の実施に向けた検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
　　「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・1月 全校生徒 / 423人
 - ・1月 保護者全員 / 423人
 - ・12月 地域・住民 人
 - ・1月 教職員 / 54人
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備
- (4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）
 - ・コロナ禍にあっても、ここ3年間でできなかった学校行事が規模を縮小しながら実施できるようになった。ただし、感染拡大の防止をしながらの実施なので、外部の方々の入場については、依然として制限をかけている。
 - ・一部の生徒であるが、近隣に迷惑をかける行為があった。
 - ・様々な制約がある中での広報活動はかなり力を入れて頑張っていますが、機械科の入試倍率が低くて心配している。
 - ・機械科の産業ロボティック技術教育の充実に期待している。
 - ・大学進学者が増えているが、本校に期待されている教育目標とのバランスを取って欲しい。力を発揮するのは大学だけじゃなく、社会に出てからの努力にありますのでそんな力量の芽を育んで欲しい。
 - ・本校では、大きなトラブルは聞いていないが、現在の高校生にとって、SNS使用上の注意や薬物乱用防止に関わる講演は非常に重要であると思うので、是非、充実させて欲しい。
 - ・コロナ禍での授業形態であるオンライン授業とリアル授業を組み合わせたハイブリッド型授業を学校の実態に合わせて活用して欲しい。

- ・オンライン授業を否定するわけではないが、オンライン学習では、何を考え、どの程度まで理解しているのか、判別するのが難しいと感じる。生徒の能力を向上させるためにも、対面での授業の大切さを理解してもらうことも必要。
- ・現在の状況でも、就職率は高く、有名企業が多い、本校が高く評価されているのがわかる。
- ・大学に進学する生徒は、全体的に数学と英語が弱い生徒が多く、また、論理的思考が乏しく入学後に苦労している。対応の検討の必要がある。
- ・問題集を通してできるだけ多くの問題を解くことが重要、早い時期からこういった指導をして欲しい。
- ・令和3年度は設備工業科の新入生が少なかった。応募人員に毎年、変化があるがその原因を分析したのか。
- ・残念ながら2年連続でインターンシップを実施できなかった。実施時期や方法を検討。
- ・進路指導では、生徒の適性をよく見極め、生徒の適性にマッチした進路指導をして欲しい。
- ・生活指導で重要な挨拶はマナーの基本。これからも挨拶の励行を指導して欲しい。
- ・資格取得や検定合格に向けての取組は非常に良いと思う。今後も組織的に様々な資格取得の機会を増やして欲しい。

(5) 評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）

- ・新型コロナの感染対策は来年度も実施する必要があると考えられるが、そのような状況下でも創意工夫して、できる限り、生徒が生き生きと活動できる場を作っていく。
- ・地域との連携を深め、防災訓練など今年度以上に共同で活動できる行事を企画していく。
- ・次年度は、第2学年全員を対象にしたインターンシップの実施し、実際に仕事を体験することで、職業観の形成、進路選択能力の向上、社会人としてのマナーの習得、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ・校門や生徒昇降口での立ち番指導や健康チェック時での挨拶指導を徹底させる。また、来客者に対しても気持ちよく挨拶できる生徒に育成する。
- ・身だしなみ等の違反を繰り返す生徒に対する指導方法について見直していく。
- ・保護者連絡だけでなく、ホームページを活用するなど。資格取得についての情報を生徒・保護者へ発信する。工業系の資格・検定だけでなく、漢字検定や英語検定についても積極的に取り組む。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・中学生の応募の状況は協議委員の全員が心配するところであるが、できる限りの広報活動に関しては評価をいただいている。本校がというより、工業高校全体の魅力の発信やモチベーションのアップが必要である。
- ・まもなく100周年を迎える本校にとって、PTA活動や同窓会活動が思う存分にできないのはつらいし、周年行事が非常に不安である。
- ・現在、本校生徒の関わりはないが、ネットでの闇バイトや特殊詐欺など高校生が関わる犯罪が増えているので度々、生徒への情報提供を行い、犯罪の抑止に役立てていく。
- ・新型コロナの影響で、体育祭が2年連続で中止になったため、伝統ある応援合戦が後輩に引き継げられない。
- ・オミクロンやその変異株が拡大を見せた時、すぐにリアル授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型に柔軟に切り替えられるよう準備が必要である。
- ・オンライン学習が苦な教員がいると思うので、校内研修を行うなど、多くの教員が取り組める環境を構築して欲しい。
- ・研究発表会などの機会は少なかったが、困難な状況にあっても、取組は続けて欲しい。今年度は工業科生徒研究成果発表大会で優秀賞

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・挨拶やマナーができることが多い。素直な良い生徒が多く、環境もいいので本校の特色である、デジタル技術をもっと前面に出してPRし、中学生の心を掴んで欲しい。
- ・中高連携については、本校入学を希望する一定数の生徒のためにも工夫しながら発展的に継続していきたい。
- ・進路活動を早めにスタートし、キャリア教育を充実させ、進路未決定者を出さない指導体制を構築して欲しい。
- ・学校評価アンケートは、保護者が来校する機会が大幅に減った関係で、答えられない項目が

- ・多く、次年度に向けて改訂や工夫が必要。
- ・入学希望者のほとんどが全入になり、生徒の学力が 2 極化しており、理解度の差が大きく、指導が困難な状況である。数学と英語は習熟度別授業を行っているが、年度途中で授業についていけない生徒を散見する。補習や課題または、オンデマンドなどを使って対策を講じる必要がある。
- ・ものづくりに対する意識が高い生徒が多いのでその期待に応えたい。
- ・生徒・保護者の入学への満足度をもっと上げていきたい。
- ・校則について不満をもっている生徒、保護者がいるので、指導方法について議論する必要がある。また、全教員が同じ目線で指導できる体制を構築していく。
- ・担任との面談を希望している保護者が多いので、工夫して実施する必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ・将来構想委員会を活用して、Society5.0 の時代を見据え、本校の教育内容の充実や魅力向上を目指し、検討や取組を推進する。
- ・令和 4 年度から施行される新学習指導要領に基づく、新教育課程や観点別評価など、フレキシブルに対応していく
- ・「学校における働き方改革プラン」に基づいた、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現に向けた取り組みを推進する。

（2）学習指導

- ・工業の教育内容等に関する DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、先端技術を取り入れた最新の実習に着手する。
- ・アクティブ・ラーニング型授業を取り入れた授業や TOKYO スマート・スクール・プロジェクト、一人 1 台端末で整備された ICT 機器を積極的に活用した効果的な授業を研究し、実施する。
- ・コロナウイルス感染拡大防止の影響で時差登校、オンライン学習、ハイブリッド授業も並行して行い、次年度も感染拡大防止と学びの保障の両立に取り組む。

（3）特別活動

- ・生徒が主体的に体育祭や文化祭などの行事を運営できるように指導していくことで、自主性・協調性を育む。
- ・部活動への参加率を高めるとともに、練習や試合を通して困難に積極的に挑戦する気持ちと達成感や成就感をもたせる。
- ・関係機関及び地域と連携することで奉仕体験活動やボランティア活動を一層充実させ、社会貢献と豊かな心を育む。

（4）生活指導

- ・本校入学後の学校満足度について、生徒 87 %以上、保護者は 95 %以上を目指す。
- ・全教員で身だしなみ指導を年間 6 回以上実施し、指導対象者の減少を図る。
- ・規範意識の取組の一環として、チャイムスタートなど、生徒が時間を守る意識を醸成する。

（5）進路指導

- ・就職活動及び進学活動について、1 年生から意欲的に取り組むキャリア教育を計画的・段階的に実施し、生徒が希望する企業への就職や大学等への進学について、進路実現 100%を目指す。

（6）健康・安全

- ・新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐ対策を最優先で実行する。
- ・セーフティ教室、薬物乱用防止教室等を引き続き実施して、生徒の健全育成と自他の命を大切にする心を養う。

6 「学校がよくなつた」と考える協議委員の割合（書面開催のため不明）

（1）協議委員人数 6人

（2）学校がよくなつたと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そうは思わない	分からない	無回答

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

なし

8 その他

- ・協議委員に授業見学の機会を設けられるようにする。
- ・学校評価アンケートの結果については、事前配布等で意見が述べやすいように工夫する。